では、シャロームで雨樋を作った流しそうめん用の台を用意したのですが、住民の皆さんが飯舘村から竹をわざわざ採ってきて、それを割って竹を使った本格的な流しそうめんの台を作って頂きました。八日に使った竹を二十二日に旧明治小仮設住宅に運んでいただいたのも第一仮設住宅の皆さんが自分の軽トラックを使って運んでいただきました。第一仮設住宅の方が運ぶことで、第一仮設住宅の方と旧明治小仮設住宅に住む方が「久しぶり！」とちょっとした交流会になるなど、シャロームの事業がきっかけで自主的に村民の皆さんが行動し、新たな出会いや再会などがありました。

その他にも八月三十日には、ネパリバザーロという横浜の支援団体企画の東鳴子温泉日帰りツアーでシャロームが飯舘村の皆さんをマッチングして三十七名で温泉日帰りツアーに参加しました。また、そのネパリバザーロさんのボランティアの学生さん達との交流会を二十八日に松川第一仮設住宅にて行い、翌週の九月五日にはシャローム UD センターに同じく大学生の皆さんが二十名来所して頂き、飯舘村の皆様と交流する機会を設けました。

この「社会からの孤立を防ぐ生きがいコミュニティーサロン事業」の現場でサポートしている主要なスタッフは基本的に二名で行っております。これだけの事業の現場をたった二名で行って来られたのも各仮設住宅などでリーダー的な存在の方が育ち、積極的に関わって頂いているおかげだと確信しております。

これから来年度以降、飯舘村は帰村宣言があり、村民の皆さんは帰る帰らないの決断をしなければいけなく、今現在すでに苦悩しておられます。形はどうあれ、飯舘村が新たな道へ歩みだす時、リーダー的存在の村民の皆さんが中心となり、あるべき飯舘村の姿を見つけ出し、同じ村民と共に歩み、美しい飯舘村を復活させることと期待しております。

シャロームとしても飯舘村の帰村宣言以降も村民の皆さんを継続して支援していき、そういった活動からシャロームの理念である「共に生きる」まちづくり、村づくりに寄与していきたいと思っております。

（UD センター・佐藤）

▲▶ 8/8 第一仮設住宅での流しそうめん涼み会の様子。地域のみなさんの交流の場にもになりました。

ひまわりプロジェクト

８月～９月の報告

◇種が福島に届き始めました

朝晩が肌寒く、すっかり秋らしい陽気となった。夏に咲き誇ったひまわりたちもぎっしりと実を付け、全国では収穫作業が行われており、既に約二〇〇キログラムもの種が福島へ寄せられている。今年の種はふっくらと中身が詰まっており、搾油量も期待できそうだ。

このような理想的な種になるまで、数々の努力があったのではないかと推察する。しかし、その努力も自然には抗えないこともある。せっかく立派に実った種が鳥に食べられたり、先の台風や長雨で花が倒されたり種が腐ったりといった報告が寄せられている。

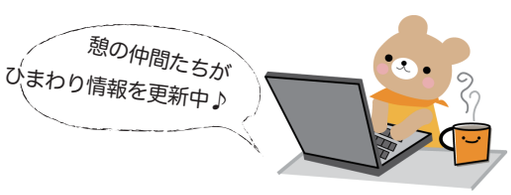
今年の問題や反省、効果のあった対策法などを積極的に共有し、来年のひまわり栽培をより笑顔に溢れたものにしていきたい。

◇鎌倉「未来連福プロジェクト」さんを訪問しました

九月十二日・十三日は、未来連福プロジェクトをはじめとした神奈川県鎌倉市・藤沢市の皆さんと交流をしてきた。東北・福島のために未来連福プロジェクト主催でチャリティー文化祭が鎌倉の建長寺にて行われ、シャローム関係者一同もひまわり大使として参加した。

夜の交流会ではひまわり栽培協力者の方々が一堂に会し、それぞれのひまわりの物語に触れることができた。また、「福島を忘れない」と何度も力強く繰り返す代表の方の姿が印象的だった。震災当時から、常に新たな問題を抱え続ける福島。ひまわり大使たちも、鎌倉や藤沢の方々の言葉に、活力と勇気を与えられたようであった。

（ひまわり担当・川島）



最新情報はブログ記事をご覧ください！
blog「ひまわりプロジェクト 2015」
URL　http://shalom-net.jp/himawari/